

夕陽會報



築城150年…晩秋の五稜郭全景

第214号



◇ 巻頭言 ◇

恩師と母校へ、限りない感謝を込めて

参与 高村昭三
(昭和33年卒 函館市学校教育審議会会長)

母校百年の長い歴史の中で、わずか二年間の在学であったが、今日まで何とか大過なくこれたのも、恩師と母校のお陰である、と心底思っている。

入学して間もなく、学部を専攻する際、全く希望しない「哲学」に回されてしまった。まるでその方向への素養も関心もなく、しばらくは登校拒否状態にあった。教務の掲示板に何回か、研究室への出頭を促され、恐る恐る顔を出したのが入学してから二ヶ月以上経ってからのことだ。

温厚でひたすら学究に徹しておられた伊藤貫一先生と、厳しくも温情あふれた秦慎二先生が、その後の私の生き方や考え方を決定づけてくれたように思う。

両先生とも、宗派は異なったがキリスト教徒で、初めて触れる教えや考え方に新鮮な驚きを感じ、随分啓発されたものである。

ギリシャ哲学専攻の伊藤先生は、ソクラテスの箴言、「汝自身を知れ」を、「身の程を知れ」と、平易に教えてくださった。倫理学専門の秦先生は、教職に就いて間もない私に、「正直なものほど騙されない。だから、いくら口でうまいことを言っても子供はだめ。神様も同様。」と仰ってくださり、いくつもの場面で戒めとしてきた。

私の結婚式は、伊藤先生ご夫妻が媒酌人をしてくださり、秦先生がお祝いを述べてくださった。その中で、カントの道徳に対する命題「汝、為すべきが故に為し与う」を引用されて、それを、村田英雄の『人生劇場』、やると思えばどこまでやるさ・・・のフレーズに置き換えて、面白くお話しくださったのを懐かしく思い起している。

「高村君、本当の勉強はこれからだね・・・」とおっしゃり、勉強とはこれでサヨナラと思っていた私であるが、文字通りその後ほぼ三十年間、辛抱強くお付き合いくださり、大学やご自宅での読書の会を続けていただいた。

きっかけは、私が教員免許一級を取得するため、私大で卒論を書き、何とか通って報告にあがったとき、その論文を基に勉強会をやらうと提案されたことから始まった。特別のことがない限り、毎週土曜日、学校での勤務の後大学に通い、当時出始めていたインスタントラーメンで昼食をとり、夕方まで会が続いた。その頃は車で通勤していたが、車中でも夢中で本に眼を通し、何とか考えをまとめて発表はしたが、先生にはその読みの浅さはお見通しであり、失望させたことも多かつたかと思う。

哲学書の翻訳には、特別回りでよく難解を極めるものもあったが、時には「こんな日本語はない。読者を混乱させて悦に入っている。」と、苛立つておられたこともあって、先生でもこんなことがあるのかと、ぐっと親しみを感じたものがあった。

山のお好きな先生とは、何回か山行にお供したものである。岩木山や出羽三山の特に長い下り坂では足を痛めて難渋し、『何の因果でこの苦行』と嘆きながらも、下山後の風呂上りの安着祝いの時には、『次はどこかの山にしようか』、とケロリとして日本酒を美味しそうに味わっておられたのも、印象深く愉快な思い出であった。

私も秦先生の亡くなられた年齢と同じ年になつてはいるが、今も尚、ことある毎に、先生との思い出やお教えを糧に余生を送っている。



夕陽「文化事業」の これまでとこれから

文化部長 佐藤洋子

(昭和52年卒 函館市立千代田小学校長)

◆夕陽「文化事業」の これまでの歴史

夕陽会の文化事業の本格的なスタートは、昭和五十二年まで遡ることができません。この年の十二月に開催された第一回夕陽音楽会が、文字通りその原点であります。

この音楽会は、昭和五十二年十二月三日土曜日に函館市民会館を会場に開かれました。第一回ということから、第一部は音楽と演劇で綴る「太陽は赤く燃える」(夕陽前史 脚本 谷藤喜代治氏 演出 齊藤佳司氏)、第二部は音楽演奏の二部構成。大学の同窓会員による音楽会開催は内外に大きな反響を呼び成功裡に終了しました。

続いて翌年平成五十三年十月には、丸井今井を会場に、第一回夕陽書道展が開催され、金子鷗亭先生の玉作も展示されました。またこの年の十一月には棒二森屋で第一回の夕陽美術展も開かれ、北は稚内、南は京都まで計六十三点の作品が寄せられました。(以上は夕陽会八十年記念誌文化部の歩みによる)

この後、音楽会、書道展、美術展は、概ね三、四年おきに、順次開かれることとなり、現在まで、続いております。

この間、平成五十七年には、母校創立七十周年を記念して、「夕陽会歌」(師範学校校歌・寮歌・学生歌を収録)のレコードを作成し、会員や関係者に広く頒布しました。また、創立八十年の際には、美術展と併せて「夕陽光景写真展」も開催しました。平成二十三年度までは、夕陽記念館を題材とした子ども絵画展も開かれていました。

なお、最近では、平成二十二年度に第

九回夕陽美術展、平成二十三年度には、第九回夕陽書道展が、また平成二十四年度には第十回夕陽音楽会がいずれも芸術ホールで開催されています。

◆これからの夕陽「文化事業」

本年度の夕陽会の運営方針にもありますように、夕陽会は新しい時代に合った同窓会の新たな形を模索するため、諸業務や諸事業の積極的な見直しと再構築を進めております。文化事業におきましても、これまでの歴史的経緯を踏まえつつ、同時に現在の状況も的確に把握しながら、事業の見直しを進めているところです。(平成二十六年度につきましても、これまでのローテーションでは、第十回の夕陽美術展を開催する予定でしたが、平成三十年度の夕陽会創立百周年の記念事業等との関連を考慮し、これを平成二十八年に開催し、本年度は文化事業を休止することといたしました。何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、今後は、二十七年に第十回夕陽書道展を開催し、平成二十八年には、第十回夕陽美術展を、そして、創立百周年となります平成三十年には、音楽会・美術展・書道展の三分野の合同開催となる文化事業を予定しております。

また、平成三十年度の三分野の合同開催を契機とし、これまで行われて参りました音楽会・美術展・書道展に一つの区切りをつけることといたしました。二十回という区切りを節目に、今後はどのような形態や規模の文化事業が新しい時代の新しい同窓会にふさわしいのかを検討して参りたいと考えております。今後とも会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

夕陽会文化事業の今後の予定

- ◆平成27年度 第10回 夕陽書道展
- ◆平成28年度 第10回 夕陽美術展
- ◆平成30年度 夕陽会創立百周年記念
音楽・美術・書道の3分野合同の文化事業開催

第10回夕陽書道展のお知らせ

とき 平成27年11月5日(土)～11月9日(月)
ところ 函館市芸術ホール・ギャラリー

*詳細は平成27年7月号の会報第216号にてお知らせいたします。

受賞(章)おめでとーございます

*瑞宝双光章(高齢者叙勲 7/1)

坂牧達夫氏(昭和22年卒
札幌市中央区北6西16の1の25の502)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲 8/1)

信賀政勝氏(昭和22年卒
函館市人見町11の17)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲 9/1)

佐藤正起氏(昭和23年卒
函館市桔梗3の23の2)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲 11/1)

古館邦夫氏(昭和22年卒
函館市東山2の55の10)

*瑞宝双光章(高齢者叙勲 11/1)

米村喜昌氏(昭和20年卒
網走市潮見8の94の117)

*瑞宝双光章(秋の叙勲 11/3)

伊藤正夫氏(昭和35年卒
函館市北美原3の28の19)

*瑞宝双光章(秋の叙勲 11/3)

渡邊十四彦氏(昭和25年卒
七飯町鳴川2の4の5)



会務報告



幹事長 奥崎 敏之 (昭和60年卒)

《一般会務・函館校関連の動き》

6/29 通信陸上男女400mリレーで夕陽会長杯の贈呈が行われる。

7/18 渡島支会長・幹事長会議に橋田会長が出席する。(七飯)

7/26 夕陽明日の教師養成塾が開催される。(函館)

9/1 夕陽記念館リーフレットの改訂について、大学と打合せを行う。(函館)

9/20 五分校会長会議が開催され、橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(岩見沢)

9/27 指導主事等会の学習会が開催され、橋田会長と永井副幹事長が出席する。(札幌)

10/1 第1回役員会がサンリフレを会場に開催される。(函館)

10/4 道北ブロック会議が開催され、青柳副会長が出席する。(増毛)

10/4 岩手支部30周年記念の会が開催され、奥崎幹事長が出席する。(盛岡)

10/18 道央ブロック会議が開催され、橋田会長、奥崎幹事長、永井副幹事長が出席する。(岩見沢)

11/11 橋田会長、奥崎幹事長が松前町教育委員会を訪問する。(松前)

12/6 道東ブロック会議が開催され、

奥崎幹事長が出席する。(帯広)

《支部総会・懇親会・同期会・個展等》

6/28 首都圏支部総会に橋田会長が出席する。(東京)

7/11 七飯支会総会に橋田会長が出席する。(七飯)

7/11 森支会総会に天野副会長、奥崎幹事長が出席する。(森)

7/14 福島支会総会に橋田会長が出席する。(福島)

8/8 39年同期会が開催され、橋田会長が出席する。(函館)

8/22 木古内支会総会が開催され、奥崎幹事長が出席する。(木古内)

8/23 海峽クラブ総会が開催され、天野副会長が出席する。(函館)

8/23 鶴岡支会支部総会が開催され、橋田会長が出席する。(函館)

9/13 高校支部総会が開催され、橋田会長が出席する。(函館)

10/25 46年同期会が開催され、橋田会長が出席する。(函館)

11/8 北師同窓会渡島支部総会に橋田会長が出席する。(函館)

11/14 函館市役所の北教大卒の懇親会が開催され、橋田会長が出席する。(函館)

11/22 六稜会渡島同窓会に橋田会長が出席する。(函館)

12/5 室蘭支部例会に奥崎幹事長が出席する。(室蘭)

12/6 札幌支部大忘年会に繪面副会長が出席する。(札幌)

(平成二十六年十二月六日現在)



夕陽「明日の教師養成塾」 後輩への熱いアドバイス」

組織部長(副幹事長) 齊藤 縁 (昭和60年卒)

「教師への道」が難関といわれるようになって久しく、教育大を卒業して何年も臨時採用だったり、教師になることを諦めてしまったりする後輩が増えてきたようです。これは夕陽会としましても非常に残念なことであり、教職に夢を抱く若者には是非希望をもってこの道を歩んでもらいたいと切実に願うところです。そこで今年も、組織部が企画・運営する「明日の教師養成塾」を、去る七月二十六・二十七日に函館校四号館特別教室にて開催いたしました。

哲学校が夏休みに入ってから最初の土曜日です。臨採の方は都合がつきにくかったと思われませんが、六月に行われなかった夕陽会本部総会の席でご案内をさせていただいたこともあり、支部長から紹介があったと、遠方からはるばる参加申し込みをされた方がおりました。また、採用試験の直前でもあり、五月の夕陽フォーラムや七月の休日に開催していたキャリアセンター主催の二次検査対策特別講座に引き続き学生からの参加希望も多かったため、人数限定で引き受けることにしました。

一日目の午前中は函館校教授の渡邊直樹先生に「北海道教育の最新動向」からその現状と課題のポイントをお話ししていただきました。終了後すぐ模擬授業や場面指導を本番と同様に行いました。信田利之先生や竹鼻洋文先生にもお手伝いいただき、このように大先輩達が熱い思

いをもち指導をしてくださったことは、大変ありがたいことだと感じました。

二日目は集団面接指導を中心に行いました。過年度卒と現役生が混在しての集団討論は、視点と経験の違いがお互いに大いに刺激になったことと思います。午後からは希望者だけの模擬授業の仕上げとなりましたが、最後の最後まで熱心に取り組む姿勢に、主催者側も思わず心が打たれました。

終了後、数名の受講生に感謝の意を伝えられました。少人数ならではのマンツーマン指導がありがたかったということです。そこで私達は同窓生であることを強く意識し、「採用試験合格と夕陽会大懇親会での再会」を固く約束しました。その後、数件の合格内定の知らせを受けました。後輩のために少しでも役に立てたことを大変嬉しく思い、今後もこの企画を継続していく意義を強く感じました。



夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはweb委員会により、刷新されてから8年が経過しました。現在まで、数万人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

夕陽会ホームページ の主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み
会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過
母校90周年記念式典、支部・本部掲示板
本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報
渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」
母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。平成30年には百周年を迎えますが、その節目に向けて、これまで発行された手書きの会報を含む様々な情報の電子化にも取り組んでおります。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/>

情宣部web委員会委員長 鳴海 裕 (昭和54年卒)

第二十四回函館ハーフマラソン

最高齢で完走

酒井 郁夫

(昭和23年卒)



秋晴れの絶好のマラソン日和を迎えた函館千代台公園陸上競技場、九月二十八日 九時五十分 号砲と共に約四千名のランナーが一斉にスタートしました。二時間二十五分四十八秒でゴール、八十五歳で完走しました。

なかなか体力的にはきつかったが、心地よい汗を流しました。

私は、この大会に第十三回大会(平成十五年)から出場し、連続十二年出場で、銀メダル一ヶ、銅メダル三ヶをもらっています。

我が母校の校下で開催されているマラソン大会に出場し、学生時代に歩いた街を、自分の脚と眼でもう一度たしかめて見たいと念願し、家族共々函館に行き、時には夕陽記念館も案内したりしています。

一緒に出場している私の孫(現在筑波大大学院スポーツ医学専攻)が、「北海道第二師範学校」のネーム入りユニフォームをプレゼントしてくれたので、そのユニフォームを着用し、「第二師範OB」と登録して出場しています。

函館ハーフマラソン大会の最大の魅力は、スタート地点からゴールまで、コースの全てが市街地であることです。

そして、多くの函館市民の方々が沿道で大声援をかけてくれるのが、とてもはげみになり嬉しいです。

又、市内の宇賀の浦中学校、函館中部高等学校の吹奏楽部の皆さんの応援も、大変な励みになり、走りながら「ありがとう」と手を振っています。

私の同期 佐藤哲哉夫妻も、大森浜海岸に立って、毎年応援してくれました。

夕陽会 元会長の安島進さんからも激励のお便りや、函館新聞でのマラソン報道の記事を送って頂きました。夕陽会 橋田恭一会長さんからも、函館ハーフマラソンを「第二師範OB」が最高齢者で完走したことを称える電話を頂き、後輩の励みになる一文を会報に載せてほしいとの光栄なお話を頂きました。

夕陽会の皆様に感謝します。

千代台公園競技場から五稜郭方面へ、松風町、大門通り、青柳町から登り坂となり谷地頭の電車停留所を廻り、湯の川温泉をユーターンした頃、そろそろ疲れが出て脚が重くなってきました。

その時は、寮歌「巴湾の水の精を掬み」や、応援歌「亀田の森に沸き上る」を口ずさむと、七十年前の第二師範 予科一年に入学した頃を思い出し「熱と力の雄叫び」によって、力が出て、マラソンを続けることができました。

この大会には教育大学函館校の学生さん達が多く参加しています。マラソンの楽しさを知って、優秀な教師になってほしいと思います。



支部の歴史をふりかえって



空知支部の歩みをたどって

空知支部長 千葉潤
(昭和53年卒 岩見沢市立第一小学校長)

現任校に着任して二年が経とうとしています。一昨年から、校舎の改築が進められ、昨年十二月末に引越し作業、本年一月から新校舎での生活が始まりました。今を辿ること四十数年前、本校は、地域にあった北本町小学校と西川向小学校を統合し第一小学校として新たなスタートが切られました。

初代校長は、昭和十四年卒の大先輩である渡辺 武校長先生です。校長室に飾られた歴代校長の先頭に位置する渡辺校長先生に見守られながら毎日を過ごしています。

当時、統合校の校長として、苦勞され、新設校の校長として手腕を発揮されたご功績があつての今でありますから、校舎改築の機会に赴任させていただいたことは誠にありがたく、強いご縁を感じずにいられません。

私事をついでに申し上げます、昭和五十三年三月に卒業後、初めて赴任した空知の地で、着任まもなく、夕陽の先輩の皆様が歓迎会を催してくださいました。

岩見沢駅前に暖簾をあげる割烹「三日月」の二階大広間に赴き、数多くの大先輩を迎えられ、上席には教育局の幹部の皆様がずらりと一線に並んでいただくをはつきり記憶しています。その中のお一人、教育局で人事を担当しておられた

係長さんから名刺を頂戴し、夕陽会の人として空知のためにがんばるようにと、大変温かく激励いただいたことも忘れられない思い出です。

会場となつたその割烹「三日月」。毎年当支部の会合を行つてまいりましたが、本年四月の総会を最後に閉じることになりました。磨き上げられた床や手すりから伝統と格式を感じながら、何度も足を運んだ思い出深い会場でした。夕陽会空知支部の歩みと切り離せない縁で結ばれてきた、だけに残念でなりません。

空知管内は、改めて申し上げるまでもなく、管内各地に開かれた炭鉱で一時代を築いた土地柄であります。お聞きするところによると、昭和二十八年四月に夕張市へ赴任した先輩のお話では、当時、夕張市内には教職員数七百名程の中で、およそ百七十名が夕陽会員、たつたとのことですから、空知全体を見渡すと大変大勢の先輩の皆さんが活躍しておられたことでしょう。

その空知も、産業構造の変化による人口流出に加え、昨今の少子高齢化などにより、一時は数百と言われた小中学校数、現在では、統廃合が進み、百十一校までに激減しております。とりわけ、同一市町に小学校一校、中学校一校のまなが、管内二十四市町中十三市町となるな

ど様相を大きく様変わりさせたのであります。

夕陽会が「土地墾闢、人民蕃殖」の精神に立ち、先輩の皆さんが全道・全国の各地で教育振興に汗を流したように、管内においても、各会員の皆様が各々の地で子どもの教育に尽力され、「教育空知」の一翼を担つてこられ、営々と「創造し行動する夕陽会ここにあり」との伝統を継承してくださいました。

夕陽会空知支部は、かつて「空知連合支部」と称し、北、南、夕張市など複数に支部を置く連合体として組織を運営するほどでした。

学校数の漸減もあり、平成に入つて校長・教頭が各一名という大変厳しい年もあつたと伺つております。それ以降、数年間は、校長と教頭を合わせても十名に満たない時期があつたとのことですが、その間も組織の維持はもちろん、管理職候補の育成や若手会員の発掘に努められ現在につながっています。限られた人員の中で会を運営されたことに敬意を表しますとともに、過去の先輩諸氏のご苦勞があつて今も空知支部が存続できていると痛感しています。

この時期に、支部規約を見直し連合支部の「連合」という文字をはずして、現在に至っています。

ところで、空知には、空知独自の「夕陽会空知OB会」が組織され親睦活動が進められています。

昭和五十八年五月二十二日に岩見沢中央バスターミナル「ニューポート」を会場に第一回の会合が、会長 高野正二先生、世話人代表岩佐 廉先生のもとで行われました。

現在のOB会は、昭和二十八年卒の有

村尚孝先生を会長として、平成十四年から毎年、総会・一泊懇親会、現職会員との交流会を重ねています。会合の折には、管外の会員もお集まりになるなど、温かな雰囲気のとおり、夕陽の絆を強めておられます。

当支部の総会後の懇親会は、OB会の皆さんを多数お迎えして、現職会員との交流会として催し、OB会員の皆さんから昔話などをお聞きし、叱咤激励をいただくひと時として定着しています。

現在、夕陽会空知支部は、校長七名、教頭五名を含め八十四人の会員数です。

管内全体で見ると、管理職は五%程度に過ぎません。しかし、各会員が管内それぞれので、それぞれの学校で優れた実践を重ね活躍している教員が多いという知らせを受けるたびに大変うれしく感じています。

空知においては決して大きな団体ではありませんが、「山椒は小粒でびりりと辛い」をモットーに、「創造し、行動する」夕陽会として、存在感を示していきたいと考えているところです。

そのためにも、当支部の課題であります若手会員の勧誘、とりわけ、ミドルリーダーの発掘と育成を重点に掲げ、役員一同一体となつて会の発展に尽くしていく決意です。

本来であれば、この紙面で、諸先輩の輝かしいご功績をご紹介すべきところですが、手元に資料が整わないために、歴史を丁寧にお聞きすることができませんでした。

今後、先輩の思いを受け継ぎ、夕陽会空知支部の新たな歴史を刻み続けてまいりますことをお誓い申し上げます。本拙稿の締めくくりとさせていただきます。

教壇で活躍する若き夕陽教師たち



今までを大切に

藤田 駿

(平成20年卒 函館市立亀田小学校教諭)

平成二十年三月、北海道教育大学函館校を卒業し、今年度より函館市立亀田小学校に赴任し、二十五名の担任として、明るく、元気な子ども達と楽しい日々を送っています。

卒業してからの六年間は、期限付教諭として、檜山、胆振管内の小学校から中学校、通常学級から特別支援学級と勤務しておりまして。

なかなか、採用試験も通らず、心も折れかけたこともありましたが、多くの人に支えられ、励まされ、乗り越えることができました。

今、採用されて思うことは、遠回りはしたけれど無駄なこと何一つないということです。子ども達との関わり、多くの先輩に教えていただいたこと、失敗の数々…。そこから学んだことが、数多く自分の力になっていてことを実感しています。何より、教壇に立ち続け、子ども達の成長を身近で感じられる毎日が充実感でいっぱいです。

まだまだ力が足りず、授業づくりや学級経営、生徒指導で失敗し、悩むことも多いです。そんな時、たくさんの先生方

に、授業のことや学級経営などについてのアドバイスをいただけることに感謝の気持ちでいっぱいです。

子ども達は、毎日元気に登校し、一生懸命学習し、たくさん遊び、時にはけんかをして成長を続けていきます。そのスピードに負けないように、これからも自分の教師としての力を高め、子ども達とともに成長していけるように努力を続けたいと思います。

最後になりますが、夕陽会の皆様には、今後もお世話になることが多々あるかと思えます。その際には、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



多くの人に支えられて

橋本 拓馬

(平成14年卒 函館市立北中学校教諭)

の無力さを痛感しています。

しかし、そんな時にいつも、校長先生、教頭先生をはじめ、先輩の先生方が授業について、生徒への接し方について、時には優しく、時には厳しく、適切な助言をしてくださります。時折、保護者の方からも温かい励ましの言葉をいただくこともあります。初めての学校ではありましたが、自分は本当に恵まれた環境で働くことができています。

そして、何よりも私を動かすエネルギーになってるのが、未熟で頼りない担任である私を信頼し、支えようと頑張ってくれている学級の生徒たちの言葉と笑顔です。彼らの成長を目の当たりにする度に、子供であるはずの彼らから、自分自身が学んでいることに気づき、「教師の道を選んだのは間違いではなかった」と実感します。

感謝の気持ちを忘れず、多くの方の支えに心えて、生徒に学ぶ楽しさを伝える生徒の成長を手助けできる教師になれるよう、自らも生徒と共に学び成長していきたいと思っています。

今後とも夕陽会の諸先輩の皆様にはご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。





初心忘るべからず

山口輝晃

(平成24年卒 函館市立旭岡中学校教諭)

母校である北海道教育大学函館校を卒業し、約二年間の期限付き教諭を経て、今年度より正採用教諭として函館市立旭岡中学校で勤務させていただいています。二年生約四十名の担任として日々教壇に立ち、生徒たちの成長を間近で感じられる喜びが、第二の故郷・函館での新生活に活力を与えてくれています。

今私は、教師としての「初心」を学び、蓄積しているところです。校長先生を始め、同僚の先生方に助言・助力をいただきながら、日々生徒たちと接しています。「若いんだから」「初任なんだし」と励ましの言葉を多々かけていただけ、温かい職場で初任を迎えられたことは、とても幸運なことだと常々思っています。しかし、生徒たちの貴重な成長の機会を無駄にしたくないと思うあまり、正解を求め失敗し、無難に逃げ後悔するという、「初任らしさ」を感じない、つまらない初任者になっていました。

この状態を打破するには、と思い悩んでいたとき、生徒たちに「初心忘るべからず」という言葉を投げかけた自分に違和感を覚えました。私自身の「初心」とは今現在であり、それなくして今後の成長は恐らくきつとありえない。それから目を背けていた自分が、ひどく愚かで恥ずかしいと感じたからでした。偽った、もしくは借り物の自分ではなく、本来の

自分で向き合わなければいけない。そう思い直したことで、少しずつ生徒にも私自身にも良い影響が還元されていると、今は実感できます。そして、先生方がかけて下さった言葉の数々は温かさだけではなく、厳しさも兼ね備えたものであったのだと気付くことができました。まだまだ未熟者であり、学ぶべきことや経験すべきことも数多くある私の現状を捉え、的確なアドバイスを下された先生方への感謝の気持ちは、絶えることがありません。今後も様々なことで思い悩むことになりませんが、「初心」を忘れずに、精進していきたいと決意を新たにしているところです。

生徒たちを取り巻く環境や心の内は日々めまぐるしく変化しています。今はまだ、守られる立場の生徒たちもいずれば、外の世界に飛び立っていきます。悩みを抱えることもあるでしょう。そんなときに、「まだ大丈夫」「まだ頑張れる」と自分自身を守り、奮い立たせることのできる術を持たせてあげたい、そう思います。私自身もそうだったように、「初心」を忘れないこと、それを糧に努力を続ければ、解決の糸口が見つかることを伝えていきたいと思っています。

今後とも、夕陽会の皆様にはお世話になることと思いますが、何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



初心忘るべからず

近石梨恵

(平成26年卒 北海道教育大学附属函館幼稚園養護教諭)

この春、北海道教育大学函館校養護教諭特別別科課程を修了し、四月から北海道教育大学附属幼稚園で勤務しております。新社会人として、教員として、学校という場で子どもたちと関わり始めてから約半年が経ちますが、初めて経験することが多く不安に思うことや戸惑うことが多くあります。そんな中で周りの先生方からご指導やご助言を頂きながら、三歳から六歳までの子どもたち六十一名と一緒に毎日充実した日々を過ごしております。

私が教員になって実感したことは、毎日が学びや気付きで溢れているということです。子どもたちの成長はもちろん、対話の難しさやおもしろさ、保護者が養護教諭に求めていることや保護者との関わりの大切さ、学校の組織の一員としての役割や養護教諭の責任など、現場で実践して初めて知ることが多々あります。これらの学びや気付きを、その時だけのものではなく確実に自分の中に吸収することが必要であると強く感じ、四月二十五日から私は日々の学びや気付き、反省を「学びノート」につけ始めました。このノートには、子どもとの関わりの中で疑問に思ったこと、周りの先生方に頂いたアドバイスをはじめ、学校現場の様々な書類の続きの方法、保護者から聞いた子育ての小さな工夫や悩み等、養護教

諭に関わることを書き留めています。そのノートを時々見返しながら日々を振り返っていると、こんな気付きがあったんだ、この学びは現在活かされているのだろうか等、教員としての自分を振り返るバイブルとなっています。いつも私に元気と笑顔だけでなく、驚きや喜び、学びや気付きをくれる子どもたちと一緒に、私も教員として人間として成長し続けられるよう、努力していきたいです。

養護教諭として、学校全体の健康安全管理や教育等を行ってきて、本当にこの判断で良いのだろうかと思うこともあります。それは、私がまだまだ経験も知識も技術も不十分であるからだと実感しています。そのため、これからの教員生活の中で、様々な出会いを大切に、「初心忘るべからず」で今抱えている子どもたちへの熱い思い、学び続ける姿勢を忘れずに日々精進していきたいです。そして、子どもたちが安心していられる居場所となれるよう広く温かい心を持ち続けていきたいと思っています。

夕陽会の諸先輩方には学生の時から大変お世話になっており、感謝の気持ちでいっぱい입니다。先輩方にして頂いたことを、いつか私も経験を積んで次の夕陽の後輩に返していきたいと思っています。今後ともご指導、ご助言のほどよろしくお願い致します。



考え続けることの大切さ

斉藤 真優

(平成26年卒 北海道教育大学附属函館小学校教諭)

平成二十六年三月に北海道教育大学函館校 養護教諭特別科を卒業し、幸運にも附属函館小学校の養護教諭として声をかけていただきました。毎日子どもたちと会えるのが楽しみで仕方ありません。

私は、平成二十年四月初めての社会人を経験しました。特殊な職場で辛いこともたくさんありましたが、それ以上にやりがいがあり、かけがえのない経験をすることができ、自分なりに目標を持ちながら続けることができました。しかし、

ある出来事により今までの自分の目標や目指してきた姿に疑問を持つようになりました。何のために：誰のために：と考えるようになりました。そんな曖昧な気持ちのまま出来るような職場ではありませんでした。私は、四年続けた職場を退職することにしました。仕事を辞めてからも悩む日が続き、何も手につかないまま数ヶ月が過ぎました。考え抜いた結果、今までの経験を活かし働き、大好きな子どもと関われる職種として養護教諭になることを目指しました。

平成二十五年四月、なんとか北海道教育大学に入学することができ、一年間という短い期間で勉学、教員採用試験、教育実習、サークルなど様々なことに対して全力で挑みました。そして、北海道という新天地で同じ目標を持つ十七人の仲間も作る事ができました。

現在、養護教諭として、まだまだ学ぶ

ことが多く、右も左もわからないところからのスタートでした。研究大会や様々な行事があり多忙を極める中で、丁寧な指導していただき、つたない説明に対してもご協力してくださいました。大きなつまずきなく働いていられる環境を提供して下さっている先生方に心から感謝いたしております。

そして、子どもたちとの保健室での関わりも私にとつて、とても大きな力となつていきます。「保健室の先生」ではなく「斉藤先生」と呼んでくれる笑顔あふれる子どもたちに毎日癒されます。素直で優しい子どもたちを前にすると、今の自分のできることは何か、子どもたちが安全で健やかに学校生活を送るためには何をすべきなのか考えさせられています。

そのおかげで日々目標を持って仕事に臨むことができているのだと感じています。考え続けることで、人は成長できるのだと私は考えています。常に目標と目指している姿を思い描きながら考え、行動することで一歩ずつでも着実に成長することが出来るはずですが、私は、考え成長し続ける教諭でありたいと思つています。

最後になりましたが、夕陽会の諸先輩方の皆様には今後ともお世話になることと思ひます。その時は、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



子どものために

橘 雄基

(平成26年卒 北海道教育大学附属函館小学校教諭)

本年春に大学を卒業し、現在、私は附属函館小学校にて講師として勤務しております。日々、「子どもにとつて」ということを念頭に生活していく中で、まだまだ自分の力不足を実感させられることばかりですが、「ああ」「やっただあ」「なるほど!」という活発な姿や、何よりも、今日の子どもの成長が垣間見えた時には、とても嬉しく充実を感じます。まだまだ教師として力及ばない私ではありますが、子どもたちと過ごす半年間の中での葛藤や苦悩から学び得たものは多くあり、ここに初心として記したく存じます。

今は個別支援、T・Tという形で教室に入る事が多い中で、一人一人の子どもを大切に、その子とかわり、その子を「見る」ことの重要性に気付かされま

す。子どもを見取ることが大事といつても、何をどう見ていくかが見取るといふことなのか、まだまだわからない部分や圧倒的に多いのは事実です。ですが、その中でも、子どもの行動や言動、表情といった表面上を「見て」いたのが、内面を「観よう」とし、そして指導を施すために「見る」という私自身の姿勢がありました。見方が変われば掛ける言葉も変わります。子どもも当然変わっていきます。

その子への話し方、聴き方、伝え方は一人一人違います。日々、そのような積み重ねを続けていくと、児童理解が深ま

たつもりになります。ですが、T・Tとして学級全体を指導する際には、一人一人の子どもを本当に看ることができているかどうかが私自身の姿にあらわれ、まだまだ「みんな」に話している状態になつてしまふことが多く、一人一人に語るように話すことができているとは言い難い

ですし、その指導の根拠が教師の都合になつていくこともあり、子どもに申し訳なく思うことの多い日々です。子どもたちと時間を共にし、かわり合い、言葉を共にし、その積み重ねを教師が子どもに返すことで、一人一人の子どもの成長につながる、心地よい学級になつていくのだろう、と私自身がこれからも常に学び続けなければなりません。

まだまだ未熟者の私ではありますが、これからも子どもたちの成長に関わっていきたいと思ひます。そのためにも、子どもを見る目を養い、授業づくりにも日々精進し、長期的な視点で指導を考えることができるよう自己研鑽に励んでいく所存であります。社会人として、教職に携わる者として、未来からの宝である子どもの成長に専心してまいります。

今後とも、夕陽会の諸先輩方の皆様にはお世話になることと思ひますが、何卒、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



鉦路支部だより

鉦路支部長 合田 晃子
(昭和52年卒 鉦路市立中央小学校長)

道央、道南からも雪の話題が届くようになりまして。鉦路市内では、まだ雪は見えないのですが、グラウンドにリンク板が並びました。年末の頃には少ない雪を集めたり、雪無しでもとにかく水を撒き続けたりして、天然リンクを作成するのです。

「暖かい」と校舎玄関に入ってくる児童には、手袋、耳掛け、ネックウォーマーなど付属品が、日毎に増えてきました。今は上着も厚手になり、靴も冬仕様のものです。

当支部の支部長を勤務最終年度に承りました。今まで、同年代の者に頼りきっていた反省も含めて、務めています。

三十八年前に特に地縁の無かったこの地に採用され、先輩達よりとても温かくもてなされた事が、当支部との最初の関わりでした。四月、自分の勤務校しか知らない私に、総会出席の声がかかりました。出席後には、お寿司のお土産まで持たせてくれた高野校長先生。有り難い限りでした。

二年後の四月。結婚式間近の情報を聞いた田中教頭先生。「俺たちにも案内状を出して」と声をかけて下さいました。夫の関係者が多い結婚式に、新婦側の参列者になって下さったのです。厚情溢れる出会いに感激しました。

これらの出会いが、私にとっては、得

がたい同窓の絆となりました。

総会には、本部から会長さん等がお見えになって、本部情報を知らせて頂けるのも有り難いことです。ここ、数年は、教職課程をめぐる変遷に同窓の一人として、一喜一憂してきました。また、鉦路教育局に同窓の方が異動されて来て、交流できることも心強いことです。

本支部の総会締めくくりは、いつも寮歌です。大学時代には一度も歌ったことの無かった歌ですが、今ではすっかり覚えてしまいました。

さて、二十六年年度会員名簿を開きますと、OBも含め七十八名の名前が列記されています。

四月の総会・歓迎懇親会、
秋の道東ブロック会議、
一月の新年交礼会

しかし、これら交流会で顔を会わすのは、十数名です。現在管理職は、教頭一名、校長四名です。そして、今年度末で退職する者が三名ですので、将来がやや心細いです。

しかし、この心細さを払拭してくれるのは、若い会員の出席です。出席してくれる会員を大切に育み、見守り、新たな絆を作っていきたいと思つているところです。それが、自分自身をこの会につなぎ止めて下さった先輩諸氏のご恩に報いることと思つています。



網走連合支部だより

網走連合支部長 西村 栄基
(昭和56年卒 斜里町立斜里中学校長)

オホーツク斜面から眺める夕陽の美しさは格別です。音もなく悠久の大地と海原に沈み、そして旭日の日の出となる。故郷・現北斗市を離れ、夕陽会員となった初任の中学校・知床で、連合支部長を仰せつかり、早二年目になりました。

毎冬、樹氷の山並みを眺めつつ、四支部(紋別・遠軽・北見・網走ブロック)各地より、支部総会・懇親会を北見の奥座敷・大江本家にて「同窓の絆」を確かめるべく、三十余の参加者が集い開催しています。ここ網走は、大先輩でありますOB福原先生・岡村先生の調査から、昭和十一年頃には間違いなく、オホーツクの地に夕陽會の活動が存在していたことが分かりました。師範学校時代から八十年以上の伝統ある地域です。かつては、二百校以上を有した管内も、今は百五十校程に縮んでしまいました。

しかし、夕陽會・大学府は、今も私達の「法」であり、その教育使命を促しています。真摯になればなるほど、その役割を担えていない自分が見えてきますが、私達なりのロマンに向かい「夕陽會」を通して、牛歩の如く進もうと考えているところではあります。

さて、人間の記憶は時と共に風化していきますが、昭和五十年代の網走管内における夕陽會の教育興隆は素晴らしい輝きがあった様です。しかしその後、組織

は萎みましたが、命脈を繋ぐべく努力してまいりました。現在の管理職数は十名・教育長一名までに回復しました。

私が先輩に言われたキーワード、函師夕陽会員は、「少数の精鋭たれ」でした。個性あふれる先輩方は、研磨と自己啓発により人間性を高め、管内の教職界に立派に対峙した方々ばかりでありました。

私の頭にあるのは、大学が私どもを育てた様に會の機関として、仲間である夕陽會員の支援に努めること。また、中堅教員リーダーの育成であります。

七年前に、平成生まれの若者集団の研修組織が立ち上がり「平成の會」と称する青年部が誕生しました。若手教員のニーズに応じた研修内容や個人研修の発表の場を創設し、網走連合夕陽會は、その運営に支援・協力をします。

これらは、未加入員の掘り起こしや夕陽會(函教大)として「会員相互の交流拡大」「世代間を繋ぐ重要なポジション」となっております。

しかし、旧態依然として故郷へ戻りたいと願ひ、十年間のプロ養成期を経て、網走を離れてしまう人材(会派の推進者)が少なくありません。新加入者数も少なくなり、新人歓迎会の催しも消えてきました。今後は、全道広域エリアでの新卒者以外の夕陽會員の異動と人事交流の促進・進展に期待をかけているところです。

夕陽会員訃報

川島 光夫氏 昭30 函館市八幡町21の3	25・3・19	菅野 喬夫氏 昭28 函館市上野町5の21	26・8・19
久保 昭氏 昭22 札幌市西区西野7の8の5の10	25・5・18	丹代 壯氏 昭22 函館市美原5の49の9	26・9・2
立林 克雄氏 昭32 函館市八幡町20の9	25・5・29	須藤 勝雄氏 昭24 大田区西蒲田2の7の7	26・9・21
笠井 幸一氏 昭12 鴻巣市赤見台2の1の10の104	26・5・2	前田 博富氏 昭28 帯広市西12南3の1の34	26・9・26
石割 一英氏 昭61 札幌市北区屯田5の1の4の11	26・5・16	佐藤 令次氏 昭31 函館市上野町8の17	26・10・2
須藤 康雄氏 昭22 札幌市東区伏古9の1の3の6	26・6・15	高谷 眞一氏 昭33 函館市道2の39の11	26・10・24
丹野 俊次氏 昭32 函館市西旭岡2の17の1	26・6・19	坂牧 達夫氏 昭22 札幌市中央区北6西16の1の25の502	26・10・24
飯田 隆治氏 昭31 寿都町字樽岸町建岩88の1	26・7・16	松浦須枝二氏 昭25 森町富士見町140の2	26・10・26
谷川 季文氏 昭54 江別市末広町31の2	26・7・30	竹原 二哉氏 昭27 函館市美原4の30の4	26・10・28
坂田 赳氏 昭19 釧路市春採7の20の1	26・7・30	浅井 嘉嗣氏 昭32 小樽市長橋5の33の20	26・11・4
信永 量子氏 昭25 函館市青柳町16の17	26・8・9	後藤 務氏 昭32 函館市東山2の1の37	26・11・12
中貝 幸男氏 昭34 函館市山の手2の48の7	26・8・10	石子(高田)満氏 昭23 帯広市西16南6の7の24	26・11・18
青木 信二氏 昭27 函館市神山3の27の10	26・8・18	遊佐 悦大氏 昭29 函館市花園町6の11	26・11・18
	笹市真理氏		キヌ氏

(平成二十六年十一月二十日現在)

前納金費制度
ご利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納金費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納金費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(三年に一度の発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

- ①大正年代の卒業生 五千円
- ②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万円
- ③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円
- ④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。
なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報第二一四号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重な写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号の表紙は今年、築城百五十年を迎えた晩秋の五稜郭全景写真です。高さ百メートルの五稜郭タワーから撮影しました。

◆北海道新幹線は、いよいよ平成二十七年年度中の開業に向けて走り出しています。新型車両も到着して、函館の観光もまもなく新時代を迎えます。ちょうど母校やわが夕陽会が百年という一つの区切りを迎えるのと時を同じくして・・・

◆第二師範の文字を胸に、見事、最高齢で函館ハーフマラソンを完走した酒井氏の勇姿に、大いなる感動と勇気をいただきました。貴重な玉稿をありがとうございます。

◆ぜひ掲載してほしい情報・取材してほしい題材等、どしどし本部事務局や情宣部にお知らせください。お待ちしております。特に同窓会の百周年にまつわるものや同期会やサークルの様子、各界で活躍する同窓の情報など歓迎いたします。

(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へ
お願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(01338) 46-22235

夕陽会専用(01338) 34-55220

FAX番号(01338) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)